



海津敦子新聞

当選一期が見た
区議会報告

連絡先 電話 080-3027-2758
住所 文京区小石川4-14-24-107

市民の広場議員控室 03-5803-1319
http://www.hiroba-bunkyo.net/

区政に対しての率直な思いを
日々、書きつつあります。 海津敦子 ブログ 検索

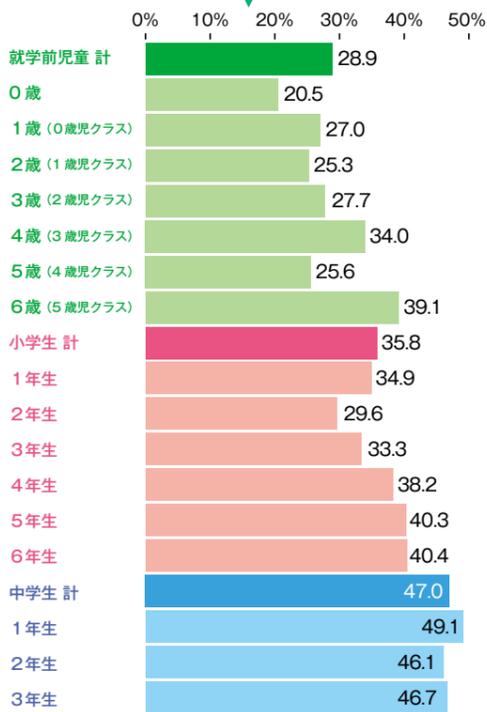
ブログ http://blogs.yahoo.co.jp/bunkiyokugi
メール bunkiyokugi@yahoo.co.jp
HP http://www.a-kaizu.net
facebook https://www.facebook.com/atsuko.kaizu.3

海津敦子
区政の
相談室
学校、子育て、介護、ご近所等々、気軽にご相談ください。
一人で、家族だけで抱えて悩んでいると迷路へ入ってしまう
ことがあります。あなたの「今」に間に合うように解決策を
共に考えていきます。ご相談に応じ弁護士とも連携します。

プロフィール ◆1961年生れ。共立女子大卒・1983年テレビ朝日入社・1992年退社 | 東洋大社会学部非常勤講師 | 所属委員会:文教委員会・災害対策調査特別委員会・少子高齢社会対策調査特別委員会

「文京区子育て支援に関するニーズ調査」より

「子育て(教育を含む)に伴う
経済的な負担が大きい」と感じる割合



「学校は子どもの学力を保証する」という当たり前を保護者は期待し「授業改善」を求めることが

保護者の役割

来年度から教育委員会は、筑波大学附属小・中学校と連携し、調査結果の分析を行い、授業改善の方策等を協議します。子ども一人ひとりの習熟や理解に考慮したきめ細やかな授業改善、家庭状況にも応じた指導が必須です。例えば、授業を通して子ども一人ひとりが「先生はいつも自分を気にかけ大切にしてくれる」という自信を持ち、自ら積極的に参加していく授業です。教室に自分の居場所が作られていない授業をされるほど辛いことはありません。

問われる授業の質

学校の責任見えず

文京区は、全国学力学習状況調査結果で今年度も児童生徒の学力は都・全国平均を上回っています。が、小学生で「塾に通っていない」子は「都42%、全国52%」に比較し、文京区は21%です。先生の中には「塾で勉強する」を前提に授業をする人もいます。教育委員会は毎年「調査結果を今後に活かしていく」と繰り返し返しますが、学校で学びを広げ深められることの徹底が未だ不十分です。塾に通わず主に学校で勉強する子どもの中には「わからないまま」取りこぼされる子どももいます。改善を求めています。

重い教育費負担

「貧困の連鎖」の心配

教育委員 調査結果は、抽出でなく知るべき

毎年、文部科学省は中学3年生、小学6年生を対象に全国学力学習状況調査を実施しています。

- 目的
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
 - 取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

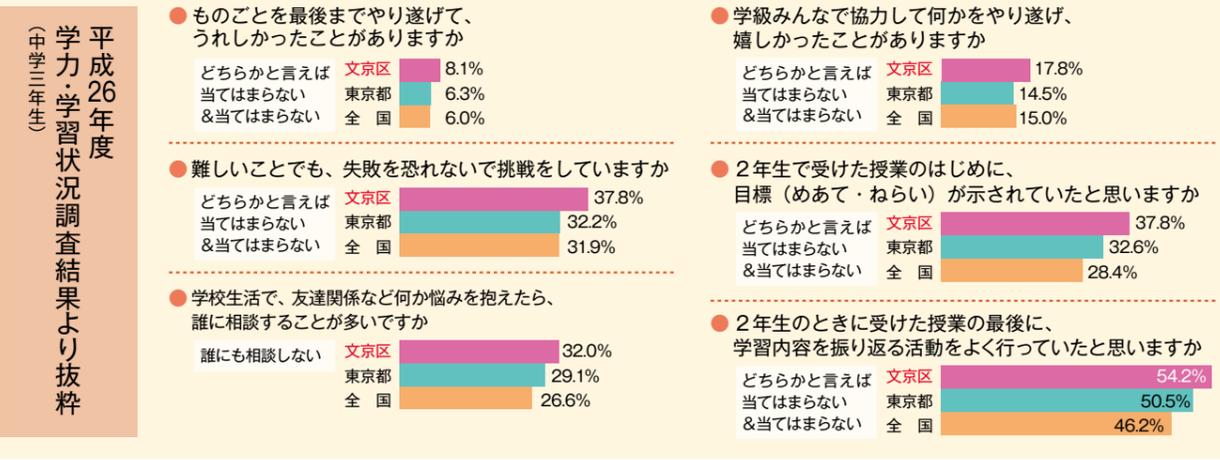
調査は学力をはかる試験と共に「朝食を食べているか」「将来の夢や目標をもっているか」といった「74問」の質問がありますが、教育委員会事務局が教育委員に報告したのはわずか18項目。文教委員会で今後は全項目を報告することを求めました。なぜなら、報告からもれた質問事項には都・全国平均から比較して文京区の中学生在が否定的に回答している率が高いケース等があり、子どもの目線に立った教育行政の推進のためには、教育委員にとって不可欠な情報です。

重要です。授業が子どもに「忍耐力」を養う場になってませんか。先生は、子ども個々の好奇心に応え、探究心を満足させる授業を組み立てるのが仕事。子どもにとって面白い授業を、あきらめずに求めることは「わが子」に楽しい学校生活をお届けると共に、すべての子どもにとって楽しく自信を養う学校づくりに通じることです。

先生の多忙と学力保証

教育委員会は「教員として子どもと向き合うための時間を確保するためには、円滑で効果的・効率的な学校運営が必須」と。しかし個々の学力保障ができない言い訳に「多忙」を使っているようにも映ります。先生が「教えること」に専念できるような人的資源の充実に予算をかけるべき。子どもの学びを

無料の学習支援の充実
学力の二極化の問題が生じていることに教育委員会は実質、見て見ぬふり。生活が困窮する家庭によって子どもが宿題をする習慣づけも困難なケースも。貧困の連鎖を止めていくためにも、小1の段階から予算をとって「わからないこと」が日々積みあがらないように支援すべきです。親の経済や家庭状況に左右されずに等しく学べ「生まれてきて良かった」と実感できるよう、きめ細かな支援に予算をしっかりとあてるのが重要です。



家にゴミがあふれる どうしたら...

家族だけではなかなか解決できない課題も、第三者とつながり共に考えることが、一歩を踏み出すコツです。

親の部屋を訪ねたら、ゴミがたまりゴミ屋敷になりそうでしたらいいか?ご近所のお宅からゴミの臭いがどうしたらいいか?そうしたご心配をよく耳にします。片付けができなくなる背景には、認知症やうつ病などが原因になることもあります。家族だけで悩まずにまずは相談をされてみてはいかがでしょうか。

高齢者なら「高齢者あんしん相談センター」へ相談をされてみてください。

- 富坂 03(3942)8128
- 富坂分室 03(5805)5032
- 大塚 03(3941)9678
- 大塚分室 03(6304)1093
- 本富士 03(3811)8088
- 本富士分室 03(3813)7888
- 駒込 03(3827)5422
- 駒込分室 03(6912)1461

高齢者以外の方々はまずは保健サービスセンターへ

- 保健サービスセンター 03-5803-1805
- 保健サービスセンター本郷 03-3821-5106

ニーズを的確にとらえる 目標は何処へ 実感が伴わない

区民のニーズ潰しに協力?

区は、区民のニーズを的確にとらえ、心から住んでいて良かったと実感してもらえぬ「文の京」を目指す。けれど、まちからは「何を言ってもまともに取り上げてもらえない」と嘆く方たちの声が届きます。

区は、区民のニーズを的確にとらえ、心から住んでいて良かったと実感してもらえぬ「文の京」を目指す。けれど、まちからは「何を言ってもまともに取り上げてもらえない」と嘆く方たちの声が届きます。

文京区議会での請願審査は、各委員会に請願を付託し委員会が中心になって審査する「委員会主義」をとっています。そのため本会議では委員会での審議を尊重した簡易表決を行っています。

直しを求める請願4件だけ、わざわざ起立表決を行い「不採択」にしたのです。「なぜ？」議会は教育委員会が決定した増築プランに基づく基本・実施設計の補正予算案を可決。にも関わらず増築プランの変更を求める請願を「採択」したままでは、議会として「相反して」

文京区は、「区民が主役」を謳い、約束している区ですから、子ども・PTA・地域が「NO」という増築計画を押し付けるようなことはしてはなりません。

春日・後樂園駅前地区再開発

事業計画変更

当初750億円の総事業費
→1100億円に

公費投入も変更

78億円
→178億 100億円の追加

私たちの税金である公費が再開発には容易く増額。再開発同様に、未来を創る子どもたちの良好な教育環境の整備や高齢者施策の拡充にもっと公費を使うべきです。

保護者・地域のニーズ
文科省も「子どもの生活の場として、ゆとりと潤いのある施設づくり」を求めている。児童数が増えるのに校庭が大幅に狭くなるのは教育環境の悪化そのもの。子どもがのびのびと学校生活を過ごせる良好な教育環境が維持できる位置に増築校舎を。

教育振興基本計画の基づく実践をあえて、できなくさせるのは大きな問題。子ども・保護者にとって「通いたい通わせたい学校」はこれまで通り森を活用した環境教育ができる学校。教育委員会が想定する増築後の教育環境は望む物とは違う。森の位置以外に校舎を増築してこれまでの良好な教育環境が守られることがニーズ。

ダイヤモンド設営が出来なくなれば河川敷等、遠隔地のグラウンド使用が増加し、移動の時間や費用の負担だけでなく、往復時の事故等のリスクが生じ、参加のハードルが高くなる。これまで通り、子どもたちが気軽に少年野球に参加できるように増築位置を変更してほしい。

危機管理からも校庭に死角がある教育環境では安心して子どもを送り出せない。死角が作られない増築校舎が望み。

教育振興基本計画	教育委員会・増築プランの問題点
子どもたちが、のびのびと学校生活を送れるような教育環境を整えるため、「狭隘な運動場や校地の拡張に向け取組を進める」と約束。	体育館等のところに増築校舎を建設すれば基本計画の方針通り「狭隘な運動場を作らない」ですむのに、あえて校庭が420㎡も狭くなる案を採用。理由とする「柳町小の体育館は更新時期ではなく順番がある」は詭弁。校舎を建て替えた6中の体育館は柳町小よりも築年数が浅くまったく更新時期ではなかった。が、「限られた校地を有効活用する」と建て替え。柳町小も土地の有効活用をして体育館に増築すれば運動場は狭くならない。
各校に「教育活動を充実させ魅力のある信頼される学校づくり」、「生命を尊重し自然をいつくしむ心を持つ子どもを育てる」を求めている。	柳町小は、「やなぎの森」を環境教育の教材に活用し、特色ある教育活動を実践。その実践が柳町小の魅力となり、子ども・保護者にとって「通いたい通わせたい学校」となり、地域からも信頼を得てきた。学校が積極的に活用してきている教育資源をわざわざ伐採しての増築の位置を森の場所にするのは、これまでの柳町小の特色ある実践を教育委員会自らが否定するもの。
文京区の区立小中学生の体力・運動能力が概ね全国平均を下回るため、子ども達に「地域のスポーツ団体等の活動への参加による体力・運動能力の向上」を掲げる。	学校開放時の利用している地域スポーツ団体の運動に必要な面積、形状等を確保することが重要だが、一切シュミレーションを行わずに増築計画を決定。結果、小学生野球チームはダイヤモンドが取れなくなる。6中の建て替えでは子どもたちの基礎的な体力・運動能力の向上を重視し、最低130mのトラックは取るようにシュミレーションを繰り返し、運動場をできる限り広く確保できるように校舎の位置等を決めたと、柳町小増築はそうした検討はまったくないまま、ただ「あそこで大丈夫だろう」という印象のみで校舎増築の位置を決定。
子どもたちが安全な学習活動に励み、保護者が安心して子どもたちを託すことができるよう、安全・安心な環境を確保する。	文科省が、学校施設の増築・改築での留意事項を示した「小学校整備指針」には「敷地内や建物内部から見通しが確保され、死角となる場所がないよう計画すること」を求めているが、教育委員会の増築プランは校庭に死角が作られる。

教育振興基本計画	教育委員会・増築プランの問題点	保護者・地域のニーズ
子どもたちが、のびのびと学校生活を送れるような教育環境を整えるため、「狭隘な運動場や校地の拡張に向け取組を進める」と約束。	体育館等のところに増築校舎を建設すれば基本計画の方針通り「狭隘な運動場を作らない」ですむのに、あえて校庭が420㎡も狭くなる案を採用。理由とする「柳町小の体育館は更新時期ではなく順番がある」は詭弁。校舎を建て替えた6中の体育館は柳町小よりも築年数が浅くまったく更新時期ではなかった。が、「限られた校地を有効活用する」と建て替え。柳町小も土地の有効活用をして体育館に増築すれば運動場は狭くならない。	文科省も「子どもの生活の場として、ゆとりと潤いのある施設づくり」を求めている。児童数が増えるのに校庭が大幅に狭くなるのは教育環境の悪化そのもの。子どもがのびのびと学校生活を過ごせる良好な教育環境が維持できる位置に増築校舎を。
各校に「教育活動を充実させ魅力のある信頼される学校づくり」、「生命を尊重し自然をいつくしむ心を持つ子どもを育てる」を求めている。	柳町小は、「やなぎの森」を環境教育の教材に活用し、特色ある教育活動を実践。その実践が柳町小の魅力となり、子ども・保護者にとって「通いたい通わせたい学校」となり、地域からも信頼を得てきた。学校が積極的に活用してきている教育資源をわざわざ伐採しての増築の位置を森の場所にするのは、これまでの柳町小の特色ある実践を教育委員会自らが否定するもの。	教育振興基本計画の基づく実践をあえて、できなくさせるのは大きな問題。子ども・保護者にとって「通いたい通わせたい学校」はこれまで通り森を活用した環境教育ができる学校。教育委員会が想定する増築後の教育環境は望む物とは違う。森の位置以外に校舎を増築してこれまでの良好な教育環境が守られることがニーズ。
文京区の区立小中学生の体力・運動能力が概ね全国平均を下回るため、子ども達に「地域のスポーツ団体等の活動への参加による体力・運動能力の向上」を掲げる。	学校開放時の利用している地域スポーツ団体の運動に必要な面積、形状等を確保することが重要だが、一切シュミレーションを行わずに増築計画を決定。結果、小学生野球チームはダイヤモンドが取れなくなる。6中の建て替えでは子どもたちの基礎的な体力・運動能力の向上を重視し、最低130mのトラックは取るようにシュミレーションを繰り返し、運動場をできる限り広く確保できるように校舎の位置等を決めたと、柳町小増築はそうした検討はまったくないまま、ただ「あそこで大丈夫だろう」という印象のみで校舎増築の位置を決定。	ダイヤモンド設営が出来なくなれば河川敷等、遠隔地のグラウンド使用が増加し、移動の時間や費用の負担だけでなく、往復時の事故等のリスクが生じ、参加のハードルが高くなる。これまで通り、子どもたちが気軽に少年野球に参加できるように増築位置を変更してほしい。
子どもたちが安全な学習活動に励み、保護者が安心して子どもたちを託すことができるよう、安全・安心な環境を確保する。	文科省が、学校施設の増築・改築での留意事項を示した「小学校整備指針」には「敷地内や建物内部から見通しが確保され、死角となる場所がないよう計画すること」を求めているが、教育委員会の増築プランは校庭に死角が作られる。	危機管理からも校庭に死角がある教育環境では安心して子どもを送り出せない。死角が作られない増築校舎が望み。



通常の請願の取り扱い

議長 これより、〇〇から〇〇までの請願を一括して採決いたします。お諮りいたします。本件は、いずれも委員会の報告のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長 御異議なしと認めます。よって、本件は、いずれも委員会の報告のとおり決しました。

「なぜ？」議会は教育委員会が決定した増築プランに基づく基本・実施設計の補正予算案を可決。にも関わらず増築プランの変更を求める請願を「採択」したままでは、議会として「相反して」

海津敦子ブログより

BLOG

<http://blogs.yahoo.co.jp/bunkyokugi>

入学に向けて 就学前の準備

さいたま市内の小中学校で、ここ6年ほど毎年就学時健診時に、保護者の方々へ「小学校に入学するにあたって」の講師を担当させてもらっています。小学校に向けての準備として…

- 「遊びが仕事」である入学前、その子がやりたい遊びを遊びきれない体験をいっぱい積ませてあげること
- できないこと、わからないことがあっても恥ずかしい事ではなく、「教えて」「助けて」って言えば困らなくなることを伝えること。また、大人もできないことやわからないことがあって、助けを求めたり、誰かに聞いたりしていることも教える共に、親自身ができないことがあれば「助けを求める実践」を見せること
- 親として子どもの素敵なところを言えるように。そして、子どもの素敵なところを先生たちと共有して、素敵なことや、できることをより伸ばしてもらう
- できないことをできるようにして、「まんべんなく」を目指す子育てをしない。できることに目を向けて、できないことは支援や配慮でフォローしていく
- 子どもの「好きなこと」は、自分が求める「好きなこと」でなくても認め応援する
- 保育園・幼稚園で先生方が子どもについて配慮していることや支援していることがあれば、具体的に聴いて、小学校へ伝えること

他には、例えば、体育の着替えなどが時間がかかってしまいそうで不安なら、総ゴムのズボンや、後ろ前がその子にわかりやすいTシャツなどを体育の日には着せること。また、学校へ持参する袋の選び方は、できればマチがあるトートバックのようなものだと出し入れがしやすい等々から、連絡帳の書き方のコツについてなどです。

でも、何よりも繰り返しお伝えすることは、「親が自分を好きになり、人生を楽しむこと」です。子どもに自分自身を好きになって自信を持った子どもに育ってもらうには不可欠だと思っています。



善意に頼りすぎない 放課後全児童向事業へ

これまで各小学校で 校庭等を開放して小学生が安心して遊べたり、学べる事業は、PTAや地域の方々の基本、善意に支えられ成り立ってきています。しかし、善意に頼り過ぎ、見守りの人を探すのも苦勞をかけてきた反省から区は、複数の部署で実施されている小学生の放課後事業を整理統合し、4月からは時給で都最低賃金以上を払えるようにするなど「放課後全児童向事業」の環境整備を行います。

特に、これまでは小学校の地域に放課後事業の運営ができる人材がいなくて「放課後全児童向け事業」の開設がなかなかできませんでした。4月からは学校・PTA・地域の方等で放課後全児童向事業の実行委員会を作れば、実質的な運営については区が紹介する事業者をお願いをする選択もできるようになります。開設のハードルがかなり低くなるのではないかと思います。区は最終的には、全小学校で少なくとも、祝日を除く月～金曜を長期休みも含めすべて開設することを目指したいとしています。より良い事業となるように次の視点について慎重に検討しておく必要があると考えます。

- 視点**
- 子ども・保護者の意見が反映される事業運営
 - 育成室や児童館との関係
 - 事故が起こった時の責任の明確化